

子ども子育て会議 要録(令和6年度 第4回 令和7年2月19日)

区分	内容
1. 開会あいさつ	
こども・健康部長あいさつ	
2. 議題	
(1) 第3期計画素案について	
事務局	「(1) 第3期計画素案について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
委員	ヤングケアラーについて質問。医療機関では患者の退院後は家族ケアがスタンダードとなっているが、退院後、訪問看護から大変そうなケースの情報を把握することがあるが、介入に繋がっていない状況もある。勝手に行政に連絡できない。ヤングケアラーの状況になる前に手がうてると思うが医療機関と行政との繋がりはあるのか。
事務局	市外の医療機関から連絡を受けることがあり、その場合は状況を把握している。その後、どう介入するかに時間がかかる。必要に応じて適切なサービス等に繋ぐ等の支援を行っている。ヤングケアラーという言葉を使わずに介入するよう努めている。
委員長	計画を計画止まりにしないことが大切。ヤングケアラーとはどのような子なのか、把握方法はどのようにするのか、関係機関や市民等から行政に声があがるシステムがあるのか、連絡があった場合どうするのか等、具体的なものがあるとよいと思う。
委員	ヤングケアラーはどのような様な家庭環境で起こりやすいのか。
事務局	色々なパターンがあるが多子世帯、貧困家庭、一人親家庭等に起こりがち。その状況によってこどもが心身の負担を伴っており、本人が選択できる選択肢を選べない状態で、こども時代を奪われていると言われている。家事、育児、介護、介助、兄弟間のお世話等を行っている事もある。周りはヤングケアラーと思っていても、本人はそう思っていない場合もあり、関わりの中で配慮しながら取り除いていくように対応している。
委員長	こどもを真ん中においた時、昔は地域の繋がりがあったが、地域社会の状況が変化しておりもう一度見直そうとしている。行政の横の連携について等、計画の中にきっかけが出てくるようなものがあればよい。
教育委員会	学校でも先生方の日常の係わりの中でその状況を発見したり、ヤングケアラーについてアンケートを実施し、ヤングケアラーを把握した場合は必要に応じて関係機関に繋いでいる。
委員	大学生で親が病気で経済的に苦しく学費を稼ぐために長時間のアルバイトをすることにより、学業がおろそかになり留年や退学等の悪循環になっている子もいる。把握した時にどのような支援をするのか。そうなる前に経済的支援は重要。
委員長	小郡市のこどものスタンスは全てのこどもが対象。幼児期から高校生までではなく色々なこどもが対象。安心して生活ができるようになればよいと思う。
委員	色々な選択肢が妨げられないことや、やりたいことに挑戦できることが大事。
事務局	7ページに「自分の生活や将来のために自らが選択できるような状況を整えていき

	<p>い。」という内容を掲載している。地域社会でどうやっていくか。地域で子育てするネットワークづくりができていく地域は、不登校や虐待が少ない印象がある。虫歯の子も少なく家庭環境が整っている事にもなる。</p> <p>小郡市は転入者も多く、問題が複雑化している家庭もある。</p> <p>例えば高齢者部局が高齢者の家庭訪問した時に子どもがお世話していたりして、ヤングケアラーの発見につながるかもしれない。子ども部局だけでなく、あらゆる部局が地域とのかかわりの中で困り感を抱える家庭を発見したら、全体で共有できるようなシステムをつくっていききたい。</p>
委員長	よい取組みの情報をお知らせすると、他の地域への広がりがでるのでは。
事務局	ヤングケアラーの問題にだけ留まらず、例えば経済状況、一人親、障害等の課題があるかもしれない家庭の支援の中で、問題の把握方法、関係部局や関係機関との連携、地域資源のネットワーク連携について等、事前に予防するために子ども家庭支援センターの機能を拡充し伴走支援を行う中で、複合的に幅広く見ていくという考え方を示唆したい。検討内容について計画に盛り込みたい。
委員	23ページの子育てと家庭教育のすみ分けはあるのか。
事務局	子育てと家庭教育とあまりすみ分けは明確ではない。
委員	子どもを社会で育てるとなった時に家庭の役割があるかもしれないが、社会の責任を大きく出していった方がよいのではないかと。昔はそれぞれの家庭が子どものしつけをしっかりとするというイメージだったが、社会で子育てを支えるとなった時に家庭教育の役割を見直すことも必要ではないかと。
委員長	<p>子どもの育ちには家庭は非常に大きい。子どもの指導には保護者も関係ある。</p> <p>保護者の中にはクレマーのような人もいるため、電話に録音機能を付けている学校も多い。子どもの育ちの中に育たない親もいる。その人にどう対応するか。</p> <p>その対応に学校は苦慮している。</p>
子ども育成課	教育基本法の中に学校教育、社会教育、家庭教育の位置づけがあり、家庭が教育の出発点と言われている。子どもの規則正しい生活習慣づくりは家庭の中で身に着けていくもの。子ども育成課でも乳幼児期、小学校入学時に啓発活動を行っている。
事務局	<p>計画の中における「家庭」という言葉の定義の位置づけは、子ども真ん中社会の中で社会全体として子どもを支えていく社会づくりや、支援体制づくり、その中には子どもが育つ環境である家庭も支援の対象として位置づける。家庭も子どもも含めて真ん中においた社会づくりということになる。</p> <p>家庭とは保護者、子育てしている方、いわゆる人だけの問題ではなく、その家庭が置かれている環境ということになる。経済情勢、雇用環境、社会との繋がり、孤立感・孤独感を抱えた家族への支援を含めて家庭が抱える環境も支援の対象になるだろう。</p> <p>この計画での「家庭」の位置づけについて整理して盛り込みたい。</p>
事務局	社会が子育てを支えることに家庭教育という言葉を使っていた。24ページ(6)との整合性もあるので整理したい。家庭教育という言葉はあまり身近ではなくなっているのかもしれない。
委員	家族の在り方も色々な形がある。
委員	子どもの基本的な生活習慣を身に着けるには家庭での毎日の生活の中で身に着け

	<p>ていくもので、それができる親とそうではない親がおり、保育所や幼稚園入園時に開きが出る。こどもにとってどれが最善の利益なのか。</p> <p>こども達が受け止めてもらえていない現実が、色々な病気や不登校等にも繋がっている。</p> <p>今の親世代は受け止められなくなってきた世代に生きている人も多いのかなと思う。そこも踏まえて環境をつくっていくことが大切だと思う。</p>
委員長	<p>人は一人では生きていけない。「人が人によって人になる。」という言葉があるように色んな人との出会いで人格形成していく。家庭が一番最初にこどもが会う。どんな家庭であってもこどもは親をかばう。こどもの育ちの中でより良い出会いがあれば良いが、そこで課題が出てきてその子の育ちの中に問題が出てくることもある。</p> <p>多様な家庭があると思うがこどもが育つうえで大切。</p> <p>外国籍のこどもさんは文化が違うが、日本で生活するうえで生きづらさを感じ問題を起こすこともある。そうすると日本人の寛容さが足らなかったのか。全ての人を受け入れているのか。外国人にも来てもらえないと働き手が足りず成り立たない世の中になってきている。温かく受け入れる小郡市になっていけば安心して子育てできる。その様なことが見えてくる計画になっているとよい。</p>
事務局	<p>家庭に対するアプローチをしていくことを前提に、生活習慣も大事にしていくことを家庭教育支援という言葉ではなく、家庭への関わりの中で重要なものはこれでというような、言葉の選び方や分類の仕方は検討したい。</p>
委員	<p>生活習慣には家庭が大事と言っているが、学校では保護者を変えるよりこどもに働きかけた方がよいという考え方。</p> <p>何時に寝たらこんな影響があるということをこどもに伝え、自分で実行できるようにする。こどもを変えることで保護者を動かすという考え方。高学年になると自分でできるようになる。こどもへの働きかけも大事。</p>
委員	<p>いわゆる生きる力への支援。それが個人単位か家庭単位なのか。</p>
委員	<p>もうちょっと豊かさがほしいですか。早起きすると気持ちいいから起きたとか、美味しい物を食べたいからお手伝いするとか。</p> <p>学校に行くためにこの時間までにあれして、これしてというのでは、何のために誰のためにしているんだろうと燃え尽きた時になりそう。</p> <p>体がこちがいいという自分の体感として育っていた方が継続すると思う。</p>
委員	<p>そういう力が家庭で育つのが理想的。むずかしい家庭もあるのが現状でこども支援に力をつけていくことも大事。計画だからそこを目指したいでいいのでは。</p>
委員	<p>最初のスタートのきっかけづくりはこどもでもいいと思う。いいサイクルづくりのきっかけづくりになる。</p> <p>朝早く起きるとご飯が美味しい。友達と楽しく会話ができた。夜も眠れる。全部やると言われると苦しいが、一つだけでゆるい感じならやってみようと思う。</p>
委員	<p>子育て支援したいと思うが、こどもにとって親は絶対的存在でこどもは「親がこう言うから」と言う。どの様な家庭か見てこども達と接している。自分の子育て期は何もなかったが今は充実している。昔は家庭教育支援に参加していた。</p> <p>ヤングケアラーかなと思ったらどこへ連絡するのか。誰がヤングケアラーと判断するの</p>

	か。本人もそう思っていないと思う。深い問題だと思う。
事務局 1:24	気づいたら市へ連絡してほしい。地域からの通報としてとらえる。秘密厳守する。 定期的に学校、保育園・幼稚園へ行きこどもの困り感がないか情報共有している。 関係機関へのポスターやチラシ配布、民生委員への周知・研修等を行っているが、まだ市民へ広く周知できていないことが課題。
(2)パブリックコメントの実施について	
事務局	「(2)パブリックコメントの実施について」説明
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか。 見る方が課題意識がないと計画を見てもらえないのでは。多くの方に見てもらえるような工夫はするのか。
事務局	何等か工夫したい。
委員	子ども達も見るのか
事務局	計画ができれば動画作成等も考えている。
(3)その他	
事務局	「(3)その他」アンケート調査回答状況等につて報告
委員長	説明の内容をふまえ、質問や意見はないか
委員	意見なし
事務局	次回会議を3月下旬開催予定
3.閉会あいさつ	
副委員長あいさつ	